

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 札幌市 】

1 実践テーマ	【I、V】
2 実施対象者	札幌市立三角山小学校 1～6年生 250名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 道徳 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	全校道徳 主として自分自身に関すること 本校の子どもの実態として、やらなければならないことを知り、粘り強く努力し続けることができる。これから望むこととして、子ども自らが自分の夢や希望に向かって、より高い目標をもち、自らその達成や実現への志をもつことが必要であると考えている。本授業は、そのきっかけづくりができたと考えた。
5 取組内容	・道徳推進教師から授業の目的や意義を伝え、講話を聞く視点について全校指導する。 ・オリンピックの講話を聞く。 ・全校で感じたことを交流し合う。 ・教室で全校児童が、考えたことや感じたことをカードに書き出し交流する。 ・全校分をまとめる。子どもたちの見方や考え方や評価のあり方について研修する。 ○指導計画 【2時間扱い】 1時間目 ・道徳推進教師から授業の目的や意義を伝え、講話を聞く視点について指導する。 ・オリンピックの講話を聞く。 ・全校で感じたことを交流し合う。 2時間目 ・教室で全校児童が、考えたことや感じたことをカードに書き、学級で交流し、互いの考えのよさを知る。

6 主な成果	・子どもは、「勇気をもつ」「今取り組んでいることをがんばり続けたい」「心を鍛えたい」等、自分のあり方を見直し、これからの時間や取組を大切にしたいと考えていることがわかった。 ・新しい教科『道徳』の実施に向けて、子どもの姿から教師としてどのような言葉をかけることができるかを学んだ。 【子どもたちの声】 ○工藤さんのようにいろいろなことに挑戦したいと思った。 ○習い事をやめなくて、最後までやらないといけなくて分かった。 ○大変なことこそがんばろうと思った。 ○やっぱり努力やがんばりは人を裏切らない。 ○はじめから無理と考える。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	取組の内容に記載した通り。
8主な課題等	・子どもたちの気持ちや考えがふくらんでいくような授業や取組を保障し続けること。 ・学校重点目標に照らしあわせ、評価観や児童観をより一致させていくとともに、確かな言動に結びつけられるよう教科横断的な取組を行って行く必要がある。
9来年度以降の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。